



インターネットが普及し、これまで想像したことのない世界の出現で、ネット世界にとっぷりつかっている人、狭間で迷っている人、拒絶している人と多様な社会現象が起きている。

想像したことのない世界と言えば、たとえば「ネット自殺」。自殺志願者がネット上で一緒に自殺してくれる人を募集し、見ず知らずの人間が実行日に初めて会い、一緒に自殺する。これまで考えられなかった現象で、増加に有効な歯止め

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

策がないのが現状だ。どっぷりとなると私も近いかもしれない。友人との会話も含め、検索(書物・情報)・予約(図書館・チケット・交通機関・宿泊・プレゼント)・連絡・打ち合わせ・銀行手続き・ショッピング・事務処理を数台のコンピュータで行っている。外出時にもモバイルコンピュータにPHSを接続し、遠隔操作で事務所と同じ環境で作業をしている。

販売をやっている方々も狭間にいる。ネット上で成功している同業他社を見聞きすると、遅れを取るのではと考えるだろうが、今までの販売の仕方との並列進捗はなかなか難しい。コ

ネット社会の中で

ンピューターに強く、これまでの商法とは違うネットビジネスに明るい人材が社内にはいないのもネットになっている。景気低迷と販売手法が激変する中、思い切った切り替えが必須となっている。人材や店舗を大胆にリストラしネット商法に転換するか、対面販売

仕入重視をさらに強化して差別化をはかるか、経営者に重要な選択肢として迫っている。

拒絶組は、携帯も持たなく販売も経験と知識を駆使した勘ピューターで、生活もあくまで自然志向である。正直言って、本来の人間がもっている力で生きて

いこうとしているうらやましい世界だ。アナログでいてほしいところもある。社社のおみくじがネット上となると、ありがたみがどうしても欠けてしまう。

逆にネット活用をさらに推進してほしいところもある。先日、夜、新幹線が不

屋で泊まらないといけないのか、金沢まで帰れる列車があるのかも悩めない。乗客が駅員に詰め寄るシーンも見られたが、これだけ情報不足なら理解できると思ってしまった。人のよきそな駅員さんたちが乗客の問い合わせに一生懸命情報収集をしようとして、電

話”にかじりついてる姿がいやに時代遅れの感があった。こんな時こそネット活用の場である。

これから良くも悪くもネット社会は加速度的に促進されていく。販売も消費者も社会生活でも振り回されずにいかにもうまく活用し制御していくのか、二十一世紀の課題ではないだろうか。